

## 第4学年 国語科 授業構想シート

授業者 川端 大奨

本実践の主張点	登場人物の人柄や心情の変化を読んだり、物語の構造を読んだりすることで物語の面白さに気づき、進んで読書に親しむ子が育つであろう。
---------	---

1. 単元名 ごんってこんなきつねだったの。比べて読もう「ごんぎつね」

### 2. 4年A組の子ども

友だちと読みを共有しながら物語の面白さに気づき、読書に親しむ子になってほしいと考えている。

### 3. 何ができるようになるか

探究力	・物語の内容と物語の構造をとらえることで、物語の面白さに気づき主体的に読書に親しむ力
省察性	・個々の読みを表現し合い、それらを共有することで自分と友達の読みのずれに気づき、物語を読み返す中で自身の読み（内容や構造の理解）を修正・改善する力

### 4. 何を学ぶのか

#### ① 単元の目標

ごんの行動と心情のずれを読むことと、ごんと兵十のすれ違いから物語の構造を読むことで、物語の面白さに気づき、読書に親しむことができる。

#### ② 教材の価値

この物語の魅力の一つは登場人物であるごんと兵十の心のすれ違いが描かれている点にある。なかなか分かり合えない両者がやっと分かり合えたかと思いきや、両者に永遠の別れが訪れるといった何とも言えない悲しさや切なさが残る作品である。この悲しさや切なさは子どもたちの心を大きく動かし、物語を主体的に読むことにつながるだろう。その点で、内容的な魅力のある作品である。また、自分の思いがなかなか伝わらないごんのもどかしさは、4年生の子どもたちの経験と重なるところがあり、ごんの心情に寄り添いながら、物語を読み進めていくことを可能にするだろう。

さらに、本作品には冒頭の説明文、情景描写の文、語り手の視点の転換など、作者の様々な工夫がある。子どもたちがそれらに触れることにより、書き方や物語のしくみなど構造の面白さにも気づき、物語を読む楽しさを広げることのできる可能性を秘めた作品であると考えられる。

③学年間・教科間のつながり

3年生の「モチモチの木」や「三年とうげ」の学習では登場人物の心情の変化には、物語中の出来事が関係していることを学んだ。4年生1学期の「白いぼうし」の学習ではファンタジー作品の構造の面白さについて学び、「一つの花」の学習では、登場人物の行動と作者の意図には関係があることを学んだ。これらの学びを活用し、本単元では、物語の面白さに迫る子どもの姿を期待する。

5. どのように学ぶのか

①働かせたい思考スキル

くらべる   
 つなげる   
 まとめる   
 広げる   
 予想する   
 見方を変える

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全 12 時間）	本時	6/12
第 1 次		
①ごんぎつねを読み、初発の感想を書く。		
②学習計画を立てる。		
第 2 次		
③ごんの行動と心情のずれを読む。		
④ごんの行動と心情のずれを読む。		
⑤ごんの人柄について考える。		
⑥ごんと兵十の心情のずれ違いから物語の構造を読む。（本時）		
⑦ごんと兵十の心情のずれ違いから物語の構造を読む。		
第 3 次		
⑧新見南吉の作品を読む。		
⑨新見南吉の作品を読む。		
⑩児童文学作品を読む。		
⑪児童文学作品を読む。		
⑫読んだ作品の読書カードを書く。		

	単元における授業づくりのしかけ
探究力を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表を活用し、ごんの行動と心情のずれを可視化することで考えの共有を図ることができるようにする。</li> <li>・ ごんと兵十の二人の心情曲線を活用し、ごんと兵十の心情のずれ違いを可視化することで考えの共有を促すことができるようにする。</li> <li>・ 新美南吉の生涯年表（作品名）を掲示し、新美南吉の作品を並べておくことで新美南吉に興味を持つことができるようにする。</li> </ul>
省察性を育む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見や考えを述べる際に、どの叙述を根拠にしているかを問うことで叙述に即して、意見や考えの妥当性を吟味することができるようにする。</li> <li>・ 個々の読みを可視化し共有化することで自分と友達との読みのずれに気づき、テキストに戻り読み返すことができるようにする。</li> </ul>

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 叙述に即して、登場人物の人柄や心情の変化を想像して読み、内容の面白さがわかる。</li> <li>・ 物語の構造から作者の意図を捉えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 叙述に即して登場人物の人柄や心情の変化を読み取り、読み取ったことを表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 叙述に着目して読み感じたことや考えたことを積極的に話し合おうとしている。</li> <li>・ 新美南吉の他の作品や児童文学作品を進んで読もうとし、読書カードを書こうとしている。</li> </ul>

## 国語科学習指導本時案

授業者 川端 大奨

日時：2019年11月3日（日）第2校時（10：10～10：55）

対象：第4学年A組 29人

場所：4年A組教室

本時の主張点	心情曲線を活用して自分の読みを可視化・共有化することで互いの考えのずれに気づき自分の読みをよりよく更新しようとする探究的な学びが実現するであろう。
--------	---

### 1. 本時の構想と学習課題について

前時には、ごんと兵十の心情曲線について話し合いを行っている。話し合いの中で物語の最後の場面において、ごんと兵十が分かり合えたのかという問いが生まれた。本時は、そのような子どもの問いから設定した「ごんと兵十は分かり合えたのか」という課題で話し合いを進めていく。ごんと兵十、二本の心情曲線を活用し、二人の心の距離を可視化・共有化しながら、ごんと兵十の心情のずれ違いについて考える展開を予想している。

ごんの兵十に対する心情は、兵十に対して「いたずらしなければよかった」と思うところから変化していく。そして、兵十に対して償いの気持ちをもつようになったごんが「おれと同じ一人ぼっちの兵十か」と気づいてからは、兵十を放っておけない気持ちが芽生えてくる。償いの気持ち、放っておけない気持ち、二つの思いから兵十に思いを寄せていくごん。しかし、その思いに気づかずにごんを撃ってしまう兵十。ごんと兵十の心情を比べながら読むことで、二人の心情のずれ違いに気づく本時としたい。

### 2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時では、前述の通り、ごんと兵十の二人の心情曲線を活用する。心情曲線は自分の読みを可視化するツールとして活用したい。また、心情曲線は、友だちとの読みのずれを認識しやすく、ずれのある部分について、話し合いをする必然性を生み出すツールにもなるのではないかと考えている。さらに、心情曲線を活用していくことで、学級のみんなが納得のいく曲線を完成させようと協働する姿を引き出すことができると考える。心情曲線の活用により、「ごんと兵十は分かり合えたのか」について協働しながら考え、自分の読みを更新しようとする探究的な学びが実現することを期待している。

省察性は、読みを可視化し、共有化する場面で働くと予想される。友だちと自分の読みにずれが生まれることで、「本当はどうだろう」と自身の考えを振り返り、叙述に即して、より妥当な読みへと考えを更新する姿が見られるのではないかと考えている。

### 3. 本時で活用・発揮したいこれまでの学び

これまでの学習では、登場人物の心情を捉える学習と物語の構造を捉える学習を行ってきた。登場人物の心情は、登場人物の会話や行動から読み取れ、物語の構造は、作者の意図が叙述に表れており、構造をもとにして、物語の主題に迫ることができるということを学んでいる。本時ではそれらの知識を活用しながら読み進めることで、物語の面白さに気づくことができると考えている。

#### 4. 本時の目標

叙述に即して登場人物の心情を想像し、ごんと兵十の心情のすれ違いについて考え、表現することができる。

#### 5. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ごんと兵十は分かり合えたのか？                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんと兵十の会話や行動から二人の心情を考える。</li> </ul> <p>2. ごんと兵十の心情曲線について話し合う。</p> <p>&lt;予想される反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんは兵十のことを思っけてくりやまつたけを持って行っているけど気づいてもらえていない。だから心情曲線が変わらない。</li> <li>・ごんは兵十に気づいてほしいから心情曲線が近づいたんだと思う。</li> <li>・火縄銃を落とした時に兵十はごんがくりやまつたけを持ってきていたと気づいたから心情曲線が変わったと思うよ。</li> </ul> <p>3. 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんと兵十が分かり合えたのかについて自分なりの考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心情曲線を提示することで学習課題を思い出しやすくする。</li> <li>・心情曲線を考えさせるときに3人組で考えを話し合わせることで全員が発言する機会を設ける。</li> <li>・必要に応じて以下の発問をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     兵十はなぜ火縄銃をばたりと取り落としたの？                      兵十はなぜ「ごん、おまいだったのか」と言ったの？                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心情曲線の変化を、叙述を根拠に考えることができるように言葉がけをする。</li> <li>・心情曲線を共有化するとき、叙述を板書することで、発言がどの叙述を根拠にしているのかがわかりやすくなるようにする。</li> <li>・話し合いが停滞したときには、3人組で話し合わせ思考を促すことができるようにする。</li> <li>・話し合いを経て、自分の意見が変わったかどうかを考えて書くことができるようにする。</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思</span> 叙述に即し、登場人物の心情のすれ違いについて読み取ったことを書くことができる。</p>